

罹患の概要

■ 最新集計について

集計の期間

罹患年月日が平成 21 (2009) 年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間。過去の罹患年についても再集計。

集計の時期

平成 24 (2012) 年 9 月 28 日現在

罹患年月日の決め方

- ① 届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする
- ② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする

集計の対象

- ① ICD-0-3 分類の性状 2 (上皮内), 3 (悪性、浸潤性) で示される新生物

② DCO 例については、①に加えて、ICD-0-3 分類の性状 1 (良性・悪性の別不詳：例 悪性の明示のない〇〇腫瘍) で示される新生物による死亡で、部位が脳、肝、膵、腎、膀胱、肺

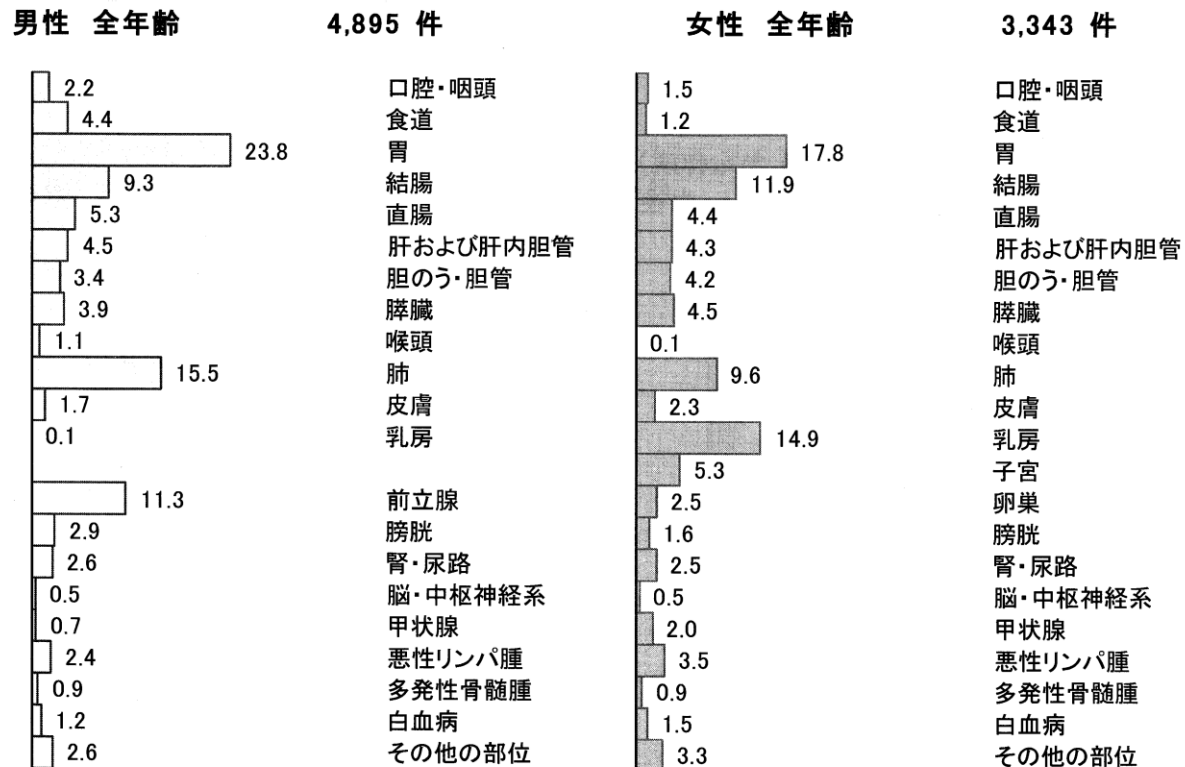
精度指標

DCN : 16.9%
 国際 DCO : 4.5%
 I/M : 2.14

■ 罹患の概要

2009 年に山形県において、男性延べ 4,895 件、女性延べ 3,343 件の、合計延べ 8,238 件のがんが、新たに診断された。男性で最も多いがんは胃がんであり、肺、前立腺、結腸、直腸、肝臓と続く。女性で最も多いがんも胃がんであり、乳房、結腸、肺と続く (図 1)。

図 1 部位内訳 (%) (表 1-A から作成)



年齢別に見たがんの罹患

年齢別にみると、2009年に新たに診断されたがんについて、約半数が75歳未満であった。また、40-64歳の年齢層は全体の約25%であった。15歳未満の罹患、いわゆる小児がんは、9例であった(図2)。

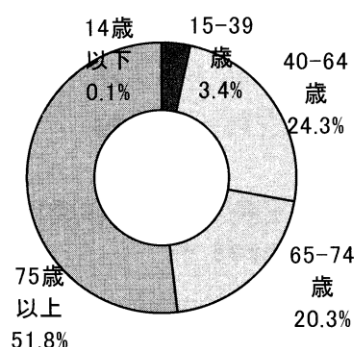
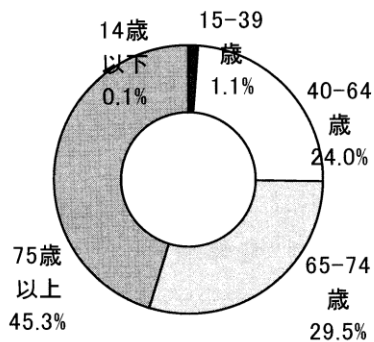
40-64歳で罹患数の多い部位は、男性では胃、肺で、女性では乳房、胃、子宮であった。女性の15-39歳では、昨年と比べて乳がんの割合が10.0%増加し、子宮がんを抜いて最も罹患の多い部位となった(図3)。

ほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすい。2009年は、男性の直腸については、70-74歳の年齢層で罹患率が最も高かった。女性の乳がんについては、40歳代と60歳代の2峰性に罹患

率が高いことが知られているが、2009年は45-49歳、55-59歳の年齢層に明確なピークが見られた。子宮体がんについては、50歳代と70歳代の2峰性に罹患率が高いことが知られているが、2009年は50-54歳の年齢層で最も罹患率が高く、70-74歳に小さなピークが見られた。子宮頸部については上皮内癌を含めない場合は、30歳代後半から罹患率が高くなることが知られているが、2009年は45-49歳の年齢層で小さなピークが認められた。

図2 年齢別内訳 (%) (表2-Aから作成)

男性	
14歳以下	7
15-39歳	52
40-64歳	1,176
65-74歳	1,444
75歳以上	2,216
合計	4,895



女性	
2	14歳以下
114	15-39歳
814	40-64歳
680	65-74歳
1,733	75歳以上
3,343	合計

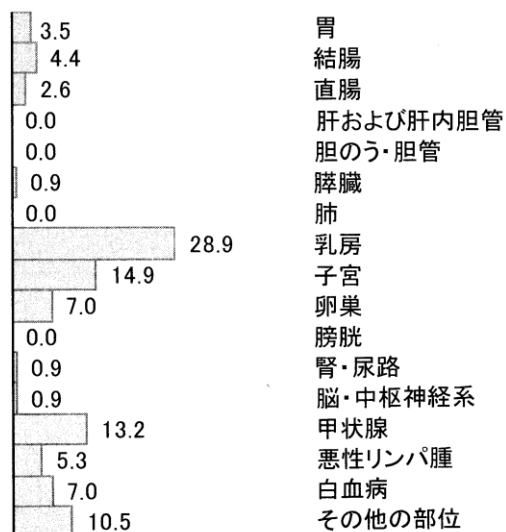
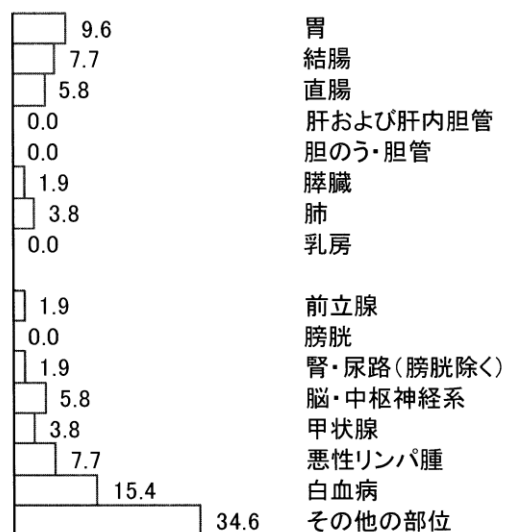
図3 年齢別部位内訳 (%) (表2-Aから作成)

男性 15-39歳

52件

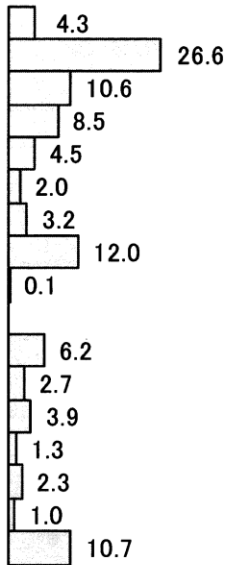
女性 15-39歳

114件



男性 40-64歳

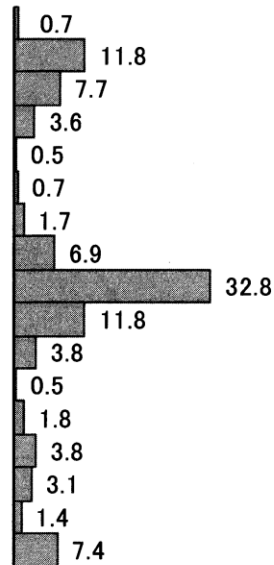
1,176 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路(膀胱除く)
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性 40-64歳

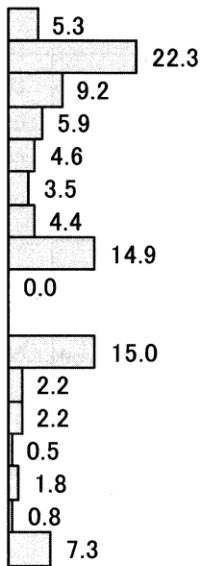
814 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

男性 65-74歳

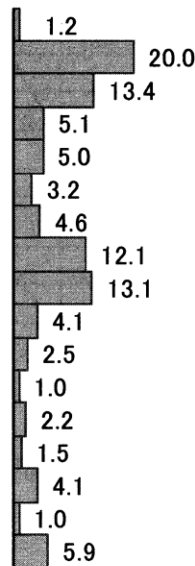
1,444 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路(膀胱除く)
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性 65-74歳

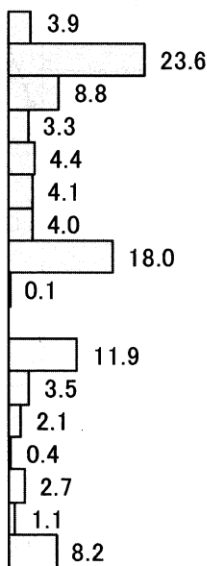
680 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

男性 75+歳

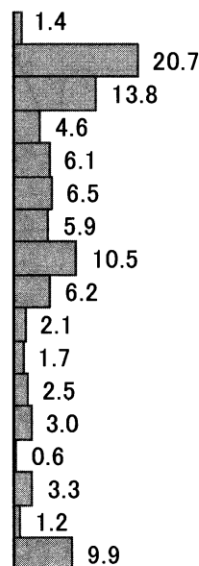
2,216 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路(膀胱除く)
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性 75+歳

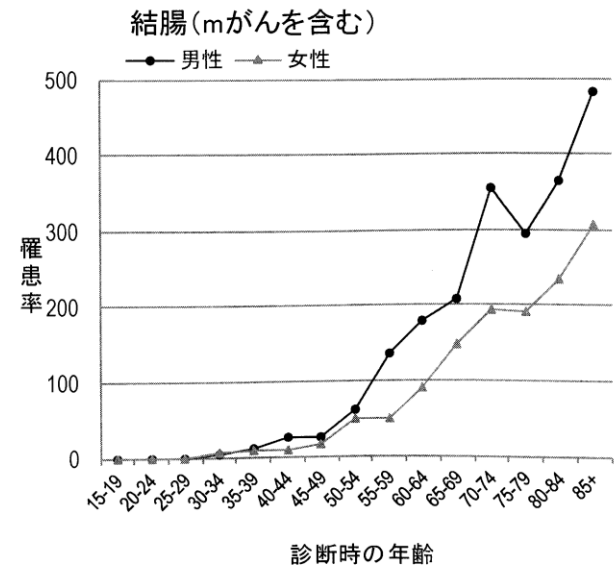
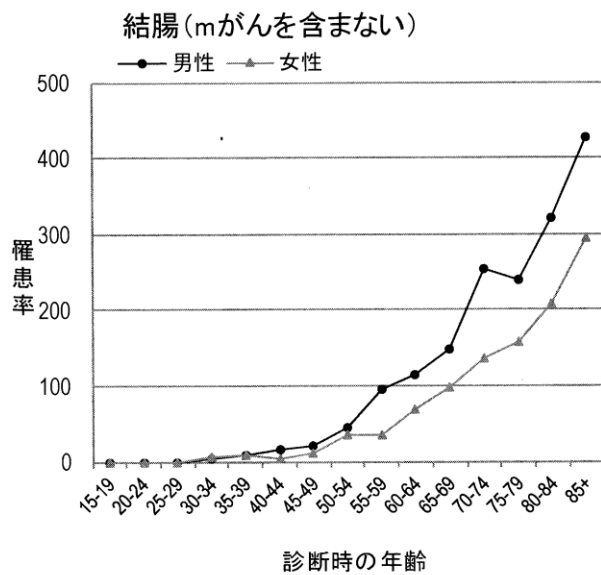
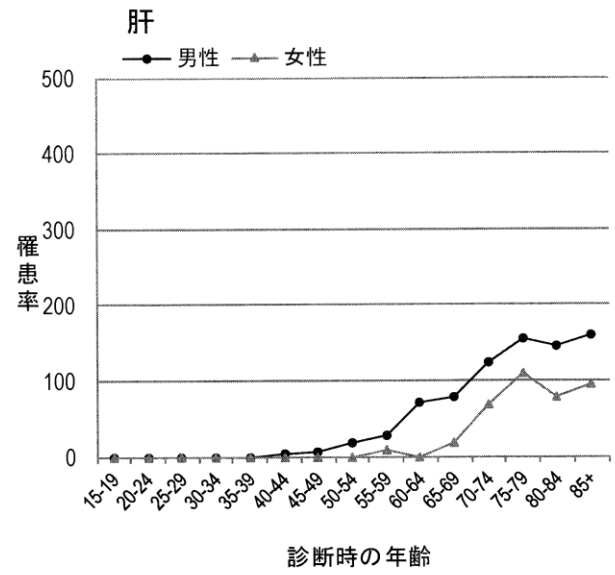
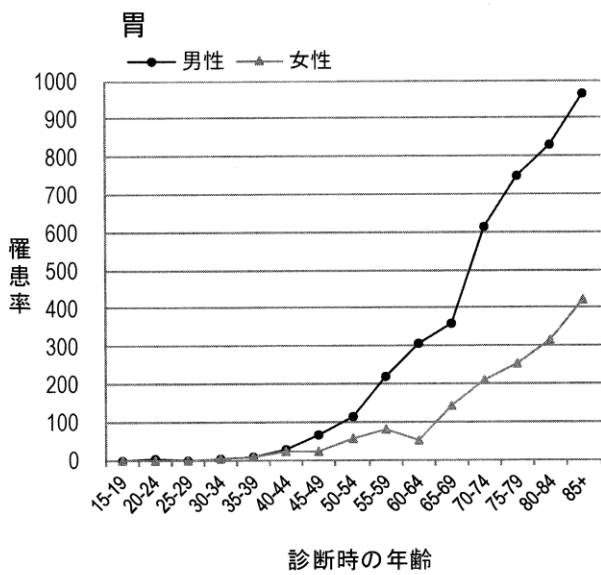
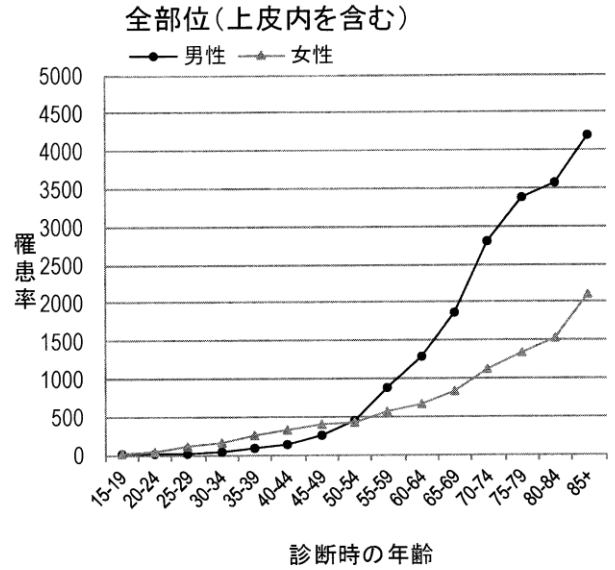
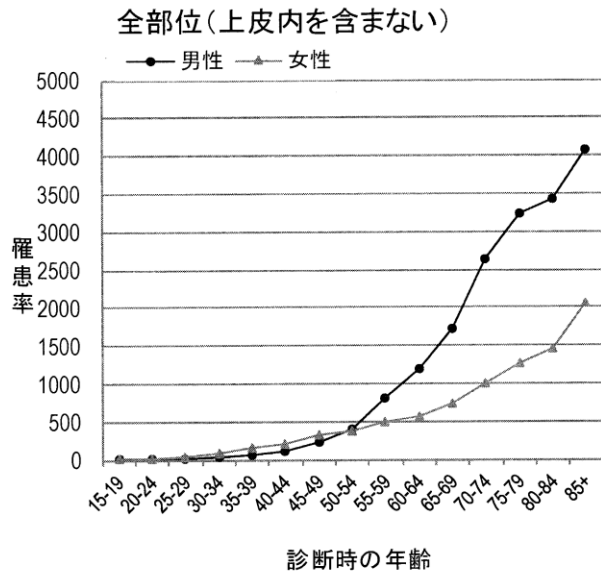
1,733 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

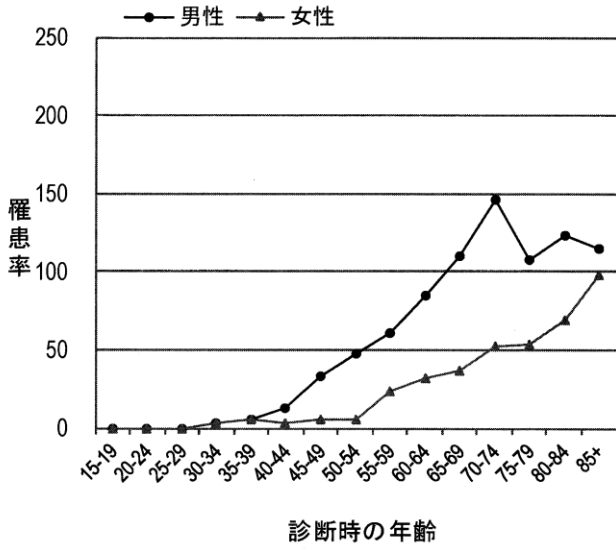
図4 部位別年齢階級別罹患率：人口10万対
 図 年齢階級別罹患率

(表3-A、Bから作成)

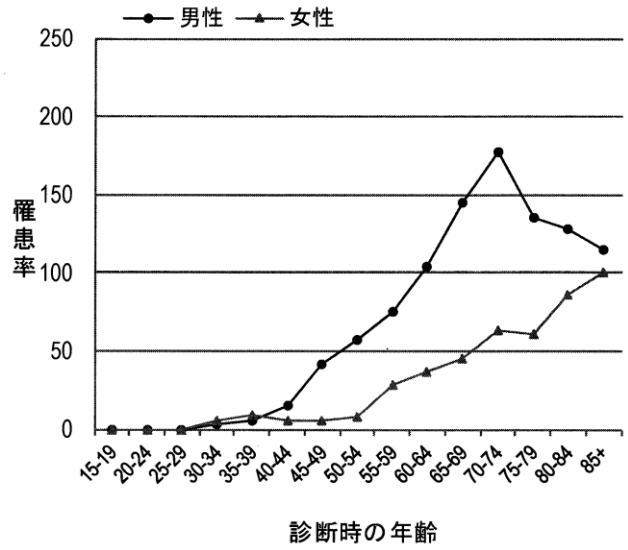


注) mがんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（mがん）は上皮内がんとして扱う。

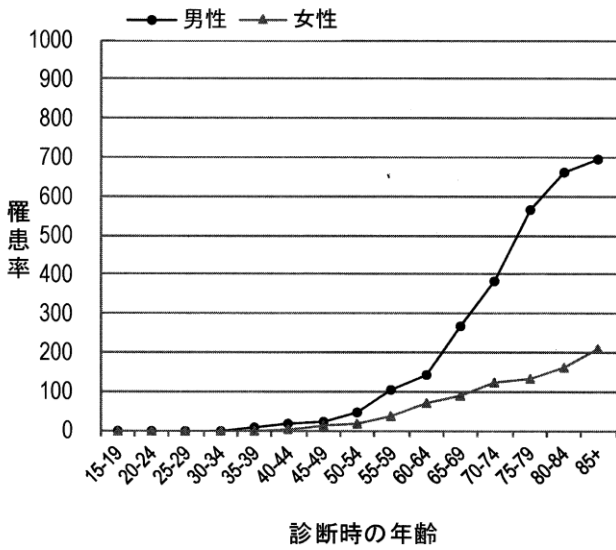
直腸(mがんを含まない)



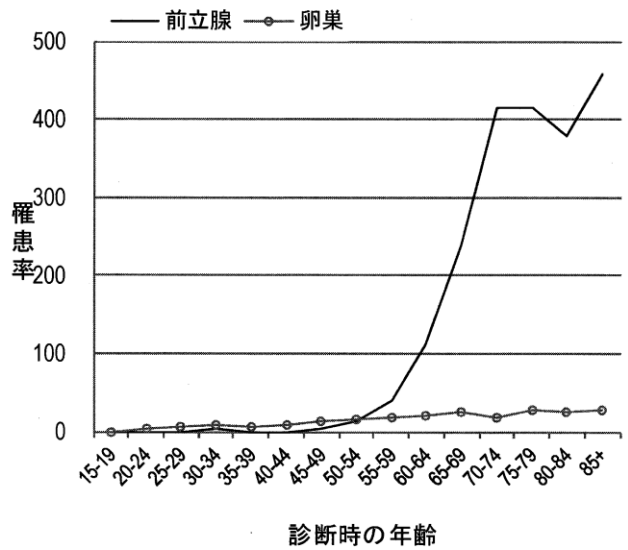
直腸(mがんを含む)



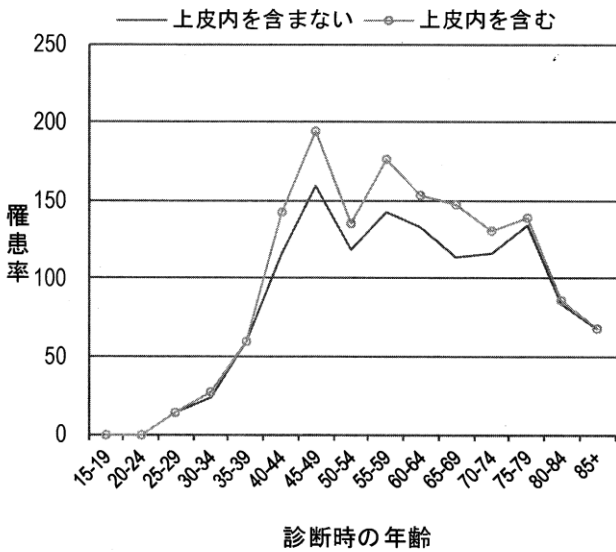
肺



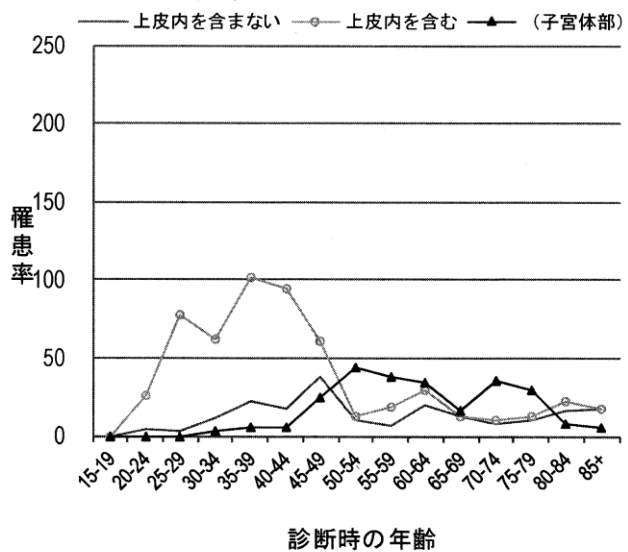
前立腺・卵巣



乳房



子宮頸部

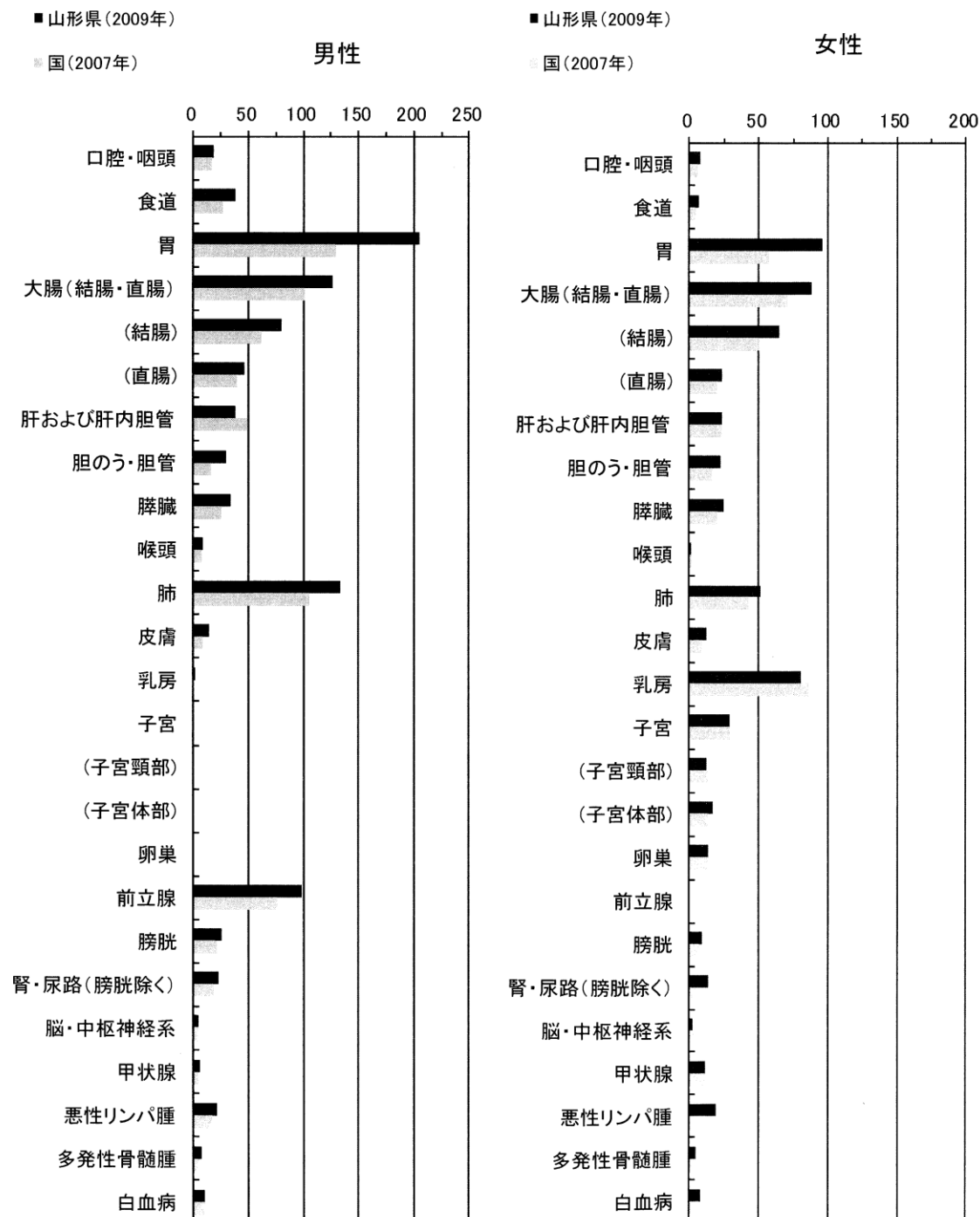


山形県のがんの罹患の特徴

日本全体の推計値と比較して、ほぼすべての部位において、本県の罹患率が高かった。特に、男女ともに本県の胃がんの罹患率が明らかに高い。全国と比べて罹患率の明らかに低い部位は男性では肝臓・肝内胆管のみであるが、全国値は著変ないのに対

して本県で増加しているため差が小さくなった。

図5 部位別がん罹患率：人口10万対（表1-Aから作成）



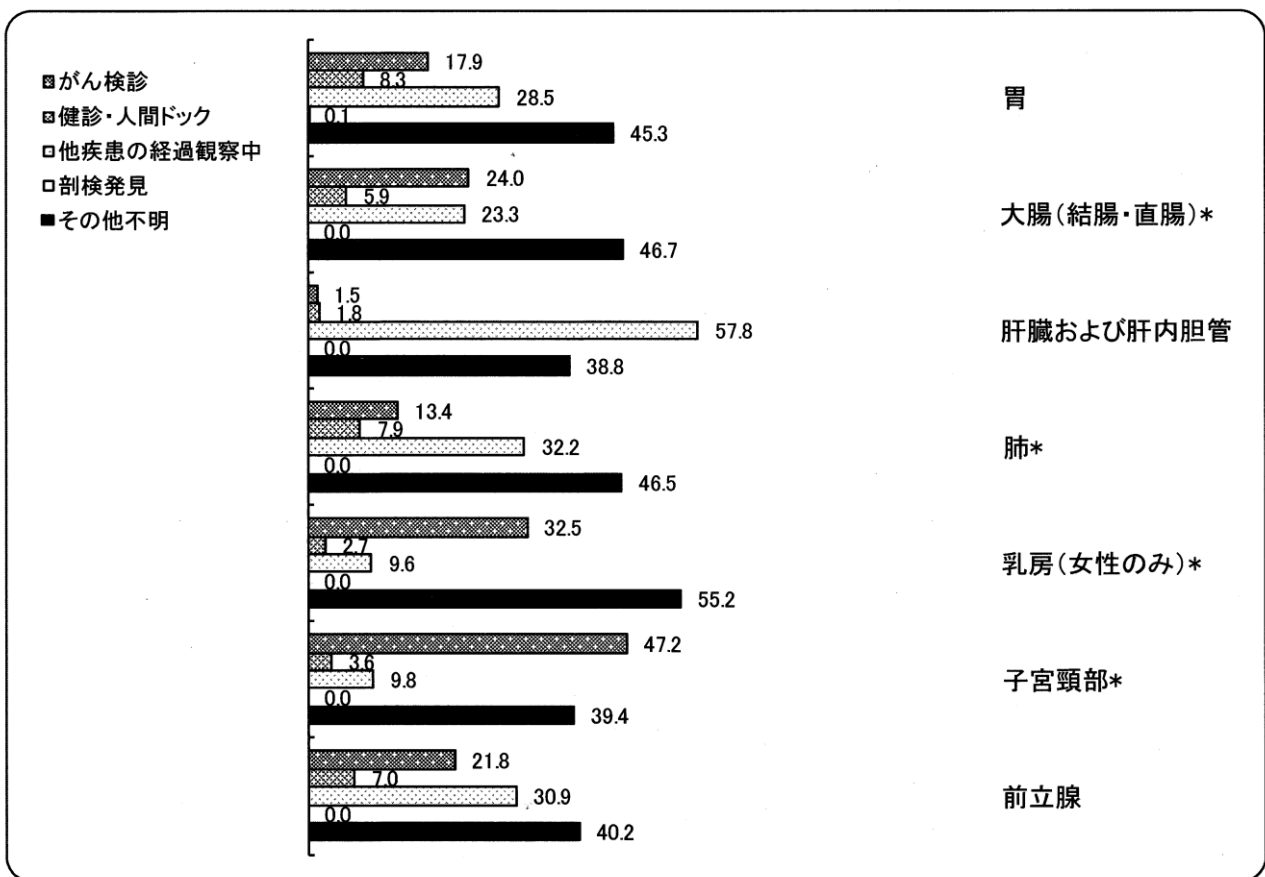
国の値は、がん対策情報センター発行「全国がん罹患モニタリング集計 2007年罹患数・率報告」より引用。

発見経緯

一般に住民検診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診もしくは健康診断や人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、胃 26.2%、大腸 29.9%、肺 21.3%、乳房 35.2%、子宮頸部 50.8%であった。前年と比べて、乳房と子宮頸部ではがん検診による発見が増加した。これは、平成 21 (2009) 年度から両部位においてがん検診推進

事業が実施され、対象年齢において無料クーポンが配布された結果、本県ではがん検診受診者が増加した影響と考えられる。その他・不明には何らかの症状による医療機関受診時の発見が含まれる。検診実施部位においては、その他・不明の割合が減少し、検診等で発見された割合の増加が望まれる。

図 6 部位別発見経緯 (%) : 対象は国内 DCO を除く届出患者 (表 4-A、B から作成)



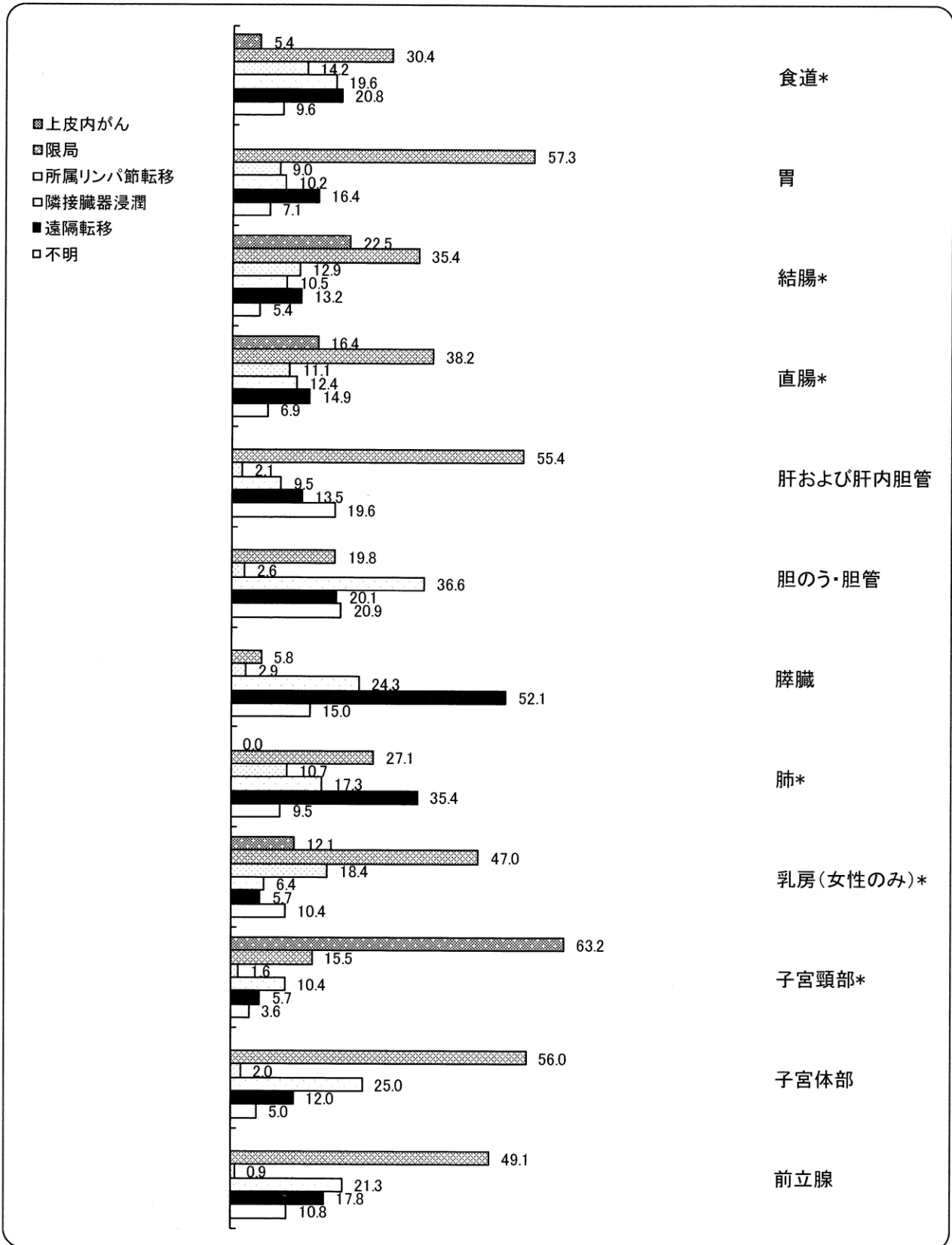
* 上皮内がんを含む

病期

胃、結腸、直腸、乳房、子宮、前立腺など、一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の病期が上皮内がん、限局がんの割合が約半数を占めていた。検診実施部位ではあるが、肺については、限局の割合は 27%で

あった。また、肝臓、胆管、膵臓などの腫瘍が比較的大きくなるまで自覚症状の出にくい部位では、発見時に遠隔転移がある割合が高く、15~20%であった。

図7 部位別発見時の病期(%)：対象は国内 DCO を除く届出患者 (表 5-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む

胃の限局には、mがんを含む。

結腸・直腸の上皮内は、mがんまでを指す。

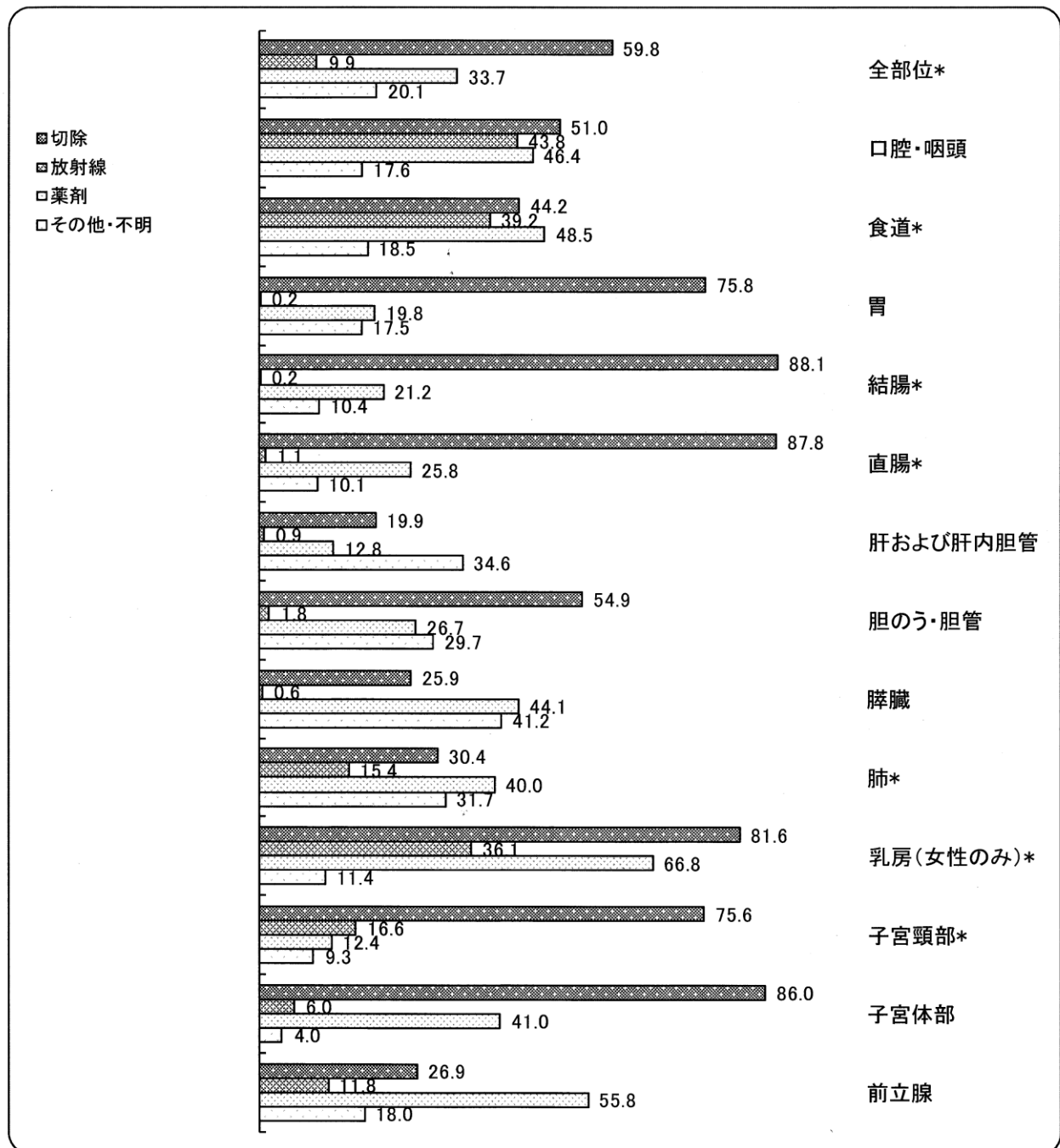
子宮頸部の上皮内は、CIN3を含む。

初回治療の方法

昨年と比べて、初回治療の方法の分布に大きく変化は認められなかった。一般的に、胃、大腸などの消化管、胆のう・胆管、子宮、腎・膀胱では、手術などの外科的治療の割合が高い。また、口腔・咽頭、食道、喉頭、乳房では、薬

剤や放射線による治療や併用療法も比較的多く行われている。

図8 初回治療の方法(%)：対象は国内DCOを除く届出患者 (表6-A、Bから作成)



* 上皮内がんを含む

切除には、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を含む。

薬剤には、化学療法、免疫療法、内分泌療法を含む。